

## 自己評価報告書

平成 23 年 4 月 19 日現在

機関番号：37302

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20320125

研究課題名（和文） キリシタン墓碑の調査研究-その源流と型式分類のための再調査-

研究課題名（英文） A Study of Kirishitan Tomb: The Origin of Japanese Christian Tomb and re-examination for its classification

研究代表者 片岡 瑠美子

（Kataoka Rumiko）

長崎純心大学・人文学部・教授

研究者番号：20185797

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：歴史考古学 キリシタン史 キリシタン墓碑

## 1. 研究計画の概要

(1) 島原半島を中心にすでに発表されているキリシタン墓碑の所在を確認し、測量、実測、製図、拓本、写真撮影を行う。

(2) 県北および県外に現存するキリシタン墓碑との比較研究を行う。日本におけるキリシタン墓碑の源流を究明するために、ポルトガル、イタリア、マカオの墓地、博物館を見学し、比較研究を進める。

(3) 文献的研究と収集した資料の分類、研究を行う。

(4) 研究のまとめ、収集・調査した墓碑の記録を確認し、報告書作成。

## 2. 研究の進捗状況（600～800字）

(1) 予定していた県内、県外に現存するキリシタン墓碑及び墓地の踏査をほぼ終了。所在地と墓碑の現状確認、主な墓碑の測量、実測、製図、拓本、写真撮影の結果及び地図のシステムへの入力作業中である。

(2) 日本におけるキリシタン墓碑の源流を究明するために、ポルトガル、スペイン、イタリアでの調査を行った。当初予定のマカオについては、事前の聞き取り調査で、16,17世紀の墓碑は残っていないことが判明、調査候補地から外し、スペインを加えた。しかし、スペインも18世紀に共同墓地の大規模な整理が行われ、ほとんどが現代の墓碑であった。

(3) ポルトガル、イタリアでは予想以上の収穫が得られた。特にリスボンの国立考古博物館、聖カルモ考古学博物館、トーレス・ヴェドラス考古学博物館、オルディリャ考古学博物館においては、学芸員の説明、質疑応答をしていただき、得るところが多かった。

イタリアでは、ローマ郊外のイゾラ・サクラのネクロポリスに、キリシタン墓碑形式の

ほぼ全種類が存在していることが確認できた。

(4) 長崎県内の墓碑調査では、他宗教の墓地との比較、文献資料による葬送墓制における比較研究を行っている。

(5) 毎年代表者が学会発表を行っている。

(6) それぞれの分担において、報告書作成を進行している。

## 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。計画に大きな変更もなく、関連地踏査、文献研究ができている。

## 4. 今後の研究の推進方策

印刷業者と打ち合せた報告書作成工程スケジュールに沿って、実地調査内容の整理、システムへの入力作業を下川達彌、研究補助者が担当し、史的考察のまとめを片岡瑠美子、片岡千鶴子、下川達彌、五野井隆史が執筆する。

研究結果を12月に「長崎学一般公開講」等で発表予定。

## 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計4件)

下川達彌「キリシタン墓碑の研究に向けて」『長崎学研究』第11号6-7頁、2008年、査読：無

下川達彌「キリシタン遺跡・遺物の検討(覚書)」『長崎学研究』第12号10-11頁、2009年、査読：無

下川達彌「キリシタン墓碑巡り - おろくさ

んの墓とおろくにん様について」『長崎学研究』第13号7-11頁、2010年、査読：無

下川達彌「キリシタンの遺物・遺跡研究について - 一つの提言 - 」『長崎県考古学会報18』4-5頁、2010年

〔学会発表〕(計5件)

下川達彌「長崎県内のキリシタン墓碑 - 禁教から現代までの推移」『第33回純心博物館講座』2008年

下川達彌「潜伏期からのキリシタン墓碑」『キリシタン文化研究会』2009年

下川達彌「ヨーロッパにおけるキリスト教墓地の事情」『長崎県考古学会』2010年

五野井隆史「江戸初期におけるキリシタン墓と宣教師の活動について」『長崎県考古学会』2010年

下川達彌「キリシタン墓碑の源流を訪ねて」『第36回純心博物館講座』2010年